

2025 年 7 月校長メッセージ「早朝の両国にいるオナガは一体どこから来るのか」

錦糸町の駅から両国の正門まで歩く途中には多くの飲食店が立ち並んでいます。朝早くこの道を歩くと、飲食店から出たゴミをカラスたちがあさっている場面によく出くわします。ゴミを回収する清掃車も早朝から作業していますが、回収のタイミングがずれると、ゴミ袋にカラスが穴を開けて中身を散乱させ、見るに堪えない状況になってしまうのです。カラスはあまり人を怖がらないため、その脇をおそろおそろ通り過ぎるしかありません。都内の他の繁華街と同様に、錦糸町もカラスの被害が多いことを実感させられます。

飲食店街を抜け、学校に近づくにつれてカラスの姿は少なくなっていくます。そして、両国の正門を入ると、何十年もの樹齢を重ねて大木となった木々が私たちを迎えてくれます。これらの木々の下には給食室と図書館の建物があり、赤レンガが敷き詰められた落ち着いた場所となっています。

木々を下からのぞき見てみると、時折木の枝にオナガが数羽止まっています。警戒の鳴き声を上げながら、枝から枝へ、そしてより高い枝へと飛び移っていきます。「錦糸町の繁華街のすぐそばの町中にオナガが暮らしている」という驚きもあり、目を凝らすと木の葉の間からオナガの青い羽毛が見え、とても可愛らしく感じられます。

オナガはスズメ目カラス科に属する鳥で、カラスに近い種類ではあるものの、見た目はカラスとは大きく異なります。青い羽根や長い尾に魅力が感じられることから、多くの愛好家がいる鳥です。

実は、このオナガにはいくつかの謎があります。その一つは、もともと本州全域と九州に生息していたと言われているにもかかわらず、1980 年代以降、関西地方より西の地域で繁殖することがなくなり、現在では神奈川より東にしか生息しなくなったことです。関西の愛鳥家やバードウォッチャーが関東地方に来た際に、見たい鳥の上位にオナガが入るほどになっているといいます。なぜ 1980 年以降、関西地方より西でオナガが繁殖できなくなってしまったのか、その原因が謎とされています。

鳥類の研究者によってさまざまな仮説が立てられています。例えば、カッコウに托卵させられていることに気づかず数を減らしたという説や、カササギとの生存競争に負けて数を減らしたという説もあるようです。しかし、関西より西のオナガだけがカッコウの被害を受けたとは考えにくく、また、カササギの繁殖地域も限定されるため、オナガが減った理由としては決め手に欠けます。オナガの繁殖がうまくいかなるような環境の変化が、人間によって引き起こされたと考えるのが妥当であるように思われます。

もう一つの謎は、現在オナガが生息している地域がユーラシア大陸の東側（中国、

朝鮮半島、日本）と西側（イベリア半島のスペイン、ポルトガル）に偏っており、大陸の中央部には生息していないことです。なぜ東と西に分かれて生息しているのかが謎となっています。かつては、スペイン人やポルトガル人が大航海時代に東アジアに到達した際、オナガを東アジアに持ち込んだという説もありました。しかし、遺伝子の研究や化石の発見から、この大航海時代のオナガ東アジア持ち込み説は否定されているようです。そうすると、なぜユーラシア大陸中央部にオナガがいないのかが新たな謎として浮上します。ユーラシア大陸全域にオナガが生息していたかどうかは、化石が発見されないと立証できませんし、もし立証できたとしても、次はユーラシア中央部で繁殖できなくなった理由を明確にしなければなりません。

このように謎に満ちたオナガが両国の校地内にいることは、とても嬉しいことです。けれども、オナガの姿を見ていると、「両国の木々にいるこれらのオナガはどこから来たのだろうか？」「どこで繁殖しているのだろうか？」という疑問がわいてきます。

そこで AI に「両国高校にやってくるオナガはどこから来るのか？」と尋ねてみました。すると、「オナガ（Azure-winged Magpie）は、通常、都市部や郊外の緑地や公園に生息しています。両国高校にやってくるオナガは、近隣の緑地や公園から移動してきている可能性が高いです。特に、オナガは広範囲にわたって移動することがあり、食べ物や安全な営巣場所を求めて行動します。」という答えが返ってきました。

さらに「オナガにとって安全な営巣場所とは？」と尋ねてみると、「オナガは、以下のような場所を安全な営巣場所として選びます。① 葉に覆われた場所: オナガは通常、葉が茂った木の枝や茂みの中に巣を作ります。これにより、捕食者から巣を隠すことができます。② ツミの巣の周囲: ツミ（Japanese Lesser Sparrowhawk）の巣の近くに営巣することもあります。ツミの防衛行動を利用して捕食者を避けるためです。③ 都市部の緑地や公園: 都市部や郊外の緑地、公園なども安全な営巣場所として選ばれることがあります。これらの場所は、オナガが捕食者から身を守り、繁殖成功率を高めるために重要です。両国高校周辺でも、これらの条件を満たす場所が営巣地として選ばれている可能性があります。」という答えが返ってきたため、どうやら両国のそばの緑地や公園からやってきている可能性が高いと考えられます。

「オナガの捕食者」についても AI に尋ねてみたところ、「オナガの主な捕食者には、ハシブトガラスなどのカラス類が含まれます。オナガはツミ（小型のタカ）の巣の周囲で繁殖することで、これらの捕食者から卵やヒナを守ることができると言われています。」と答えがありました。

両国周辺の緑地や公園としてすぐに思い浮かぶのは、高速道路を挟んで江東区側にある猿江恩賜公園です。両国から猿江恩賜公園までは直線距離にして 500m 少々です。また、AI の回答にあった小型のタカ「ツミ」について、猿江恩賜公園で見られる野鳥

に含まれるかをインターネットで調べてみると、ツミが生息しており、頻繁に目撃されていることも分かりました。

こうした調査の結果として、「両国にやってくるオナガは猿江恩賜公園から来ている」という仮説を立てました。この仮説を検証するには、実際に猿江恩賜公園へ赴き、オナガが巣を作って繁殖しているか、そしてオナガの巣のそばにツミの巣があり、カラスからオナガの巣を守っているのかを確認する必要があります。そこで6月のある日、猿江恩賜公園でフィールドワークを行いました。

猿江恩賜公園は江東区毛利にあり、園内には野球場や庭園、池、テニスコート、ホールなどがある大きな公園です。両国から歩いていくと10分ほどで公園に到着します。北園側から、大きな木が植わっている場所を中心に、どのような野鳥がいるのか観察を始めました。特にオナガとツミを探して目を凝らし、耳を澄ませて鳥のさえずりを聞きながら、ゆっくりと園内を散策しました。

鳥の観察、バードウォッチングには、他の自然観察やフィールドワークと同様に、守るべきルールやマナーがあります。日本野鳥の会では、これを「やさしいきもち」と表現しています。

や：野外活動、無理なく楽しく

さ：採集は控えて、自然はそのままに

し：静かに、そーっと

い：一本道、道からはずれないで

き：気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑

も：持って帰ろう、思い出とゴミ

ち：近づかないで、野鳥の巣

良い写真を撮りたいからといって、営巣地に無闇に近づいて繁殖を妨害したり、勝手な餌付けなどで生育環境を破壊したりするのは言語道断です。マナー違反の「撮り鉄」や心ない旅行者が地域に迷惑行為となるのと同様のことが、鳥の観察でも起こり得ることを自覚する必要があります。こうした点に注意しながら、ゆっくりと園内を回りました。

公園内では何種類かの野鳥を観察することができました。特に野球場南側の池周辺は、野鳥が繁殖できるよう施設管理者の配慮がなされていました。この日に私が見ることができたのは、コサギ、アオサギ、シジュウカラといった野鳥です。オナガも一羽飛んでいる様子を確認できましたが、多く見られたのはムクドリとカラスで、残念

ながらツミを見ることはできませんでした。

公園内でシジュウカラを見ることができ、鳴き声を聞いたのは幸いでした。シジュウカラはただ意味もなくさえずっているのではなく、その鳴き声は言語であるという研究をしているのが東京大学教授の鈴木俊貴先生です。先生は、シジュウカラの鳴き声には文法もあり、明確な意味をもって鳥同士の言語として機能しているという研究成果を上げていらっしゃいます。関連書籍も多数出版されており、テレビで取り上げられたり、YouTube にも関連動画がいくつもあつたりしますので、興味がある方はぜひご覧ください。

この日のフィールドワークの結果として、両国の敷地に来るオナガが猿江恩賜公園からやって来ているという仮説は、残念ながら立証できませんでした。また、オナガが外敵であるカラスを避けるため、ツミのそばで営巣していることも確認できていません。

今後、フィールドワークは複数回行い、オナガやツミを探してみる必要がありそうです。オナガが1羽いたのは間違いないので、巣があつて繁殖しているかどうか確認できるよう、拡大率の高い双眼鏡などの用意も必要となるでしょう。その上で、立てた仮説が正しいかどうか検証していくことになります。猿江恩賜公園でオナガが繁殖しているとしても、そのオナガが両国の校地に来ているかどうかを継続して観察することも重要です。さらに、猿江恩賜公園以外からオナガが来ている可能性も考慮しなければなりません。仮説検証を進めるほど、オナガをめぐる謎は深まるばかりです。

リンク [2025 年 6 月校長メッセージ 「現代社会における覇道と王道」](#)

[2025 年 5 月校長メッセージ 「おいしいラッシーの作り方」](#)

[2025 年 4 月校長メッセージ 「『NEXUS 情報の人類史』を読んで考えたこと」](#)